

背景

- ・21世紀は環境の世紀であり、地球温暖化、大気汚染などの課題は、国際社会の連携した取組が必要。
- ・これからのグローバル社会において、日本の環境技術は、世界に誇る最大の強みである。

めざす姿

(a) 水俣病のような深刻な環境汚染を世界で二度と繰り返さないため

(b) 経済と社会の成長のバランスを考慮しつつ、国際社会が取り組むべき環境対策について

(c) 世界と対等に議論し、課題解決に貢献できる人材を育成する

目標

(a) なぜ国際社会が真剣に環境問題に取り組む必要があるのか
「Why」

(b) どのような環境問題に、日本としてどのような貢献ができるか
「What」

(c) (a) (b)について提言し、世界と対等に渡り合う手段を身につける
「How」

思考力

判断力

表現力

世界が直面する環境問題へ提言・議論する
グローバルリーダーの育成

水俣学

環境問題

論理的
思考力

科学的
思考力

レセプティブ
マインド
(受容する力)

アクティブ
サジェスション
(能動的提言)

研究機関

国立水俣病総合研究センター
水俣環境アカデミア

大学

(国内)
慶應義塾大学 東京大学
熊本大学 熊本県立大学
熊本学園大学 鹿児島大学
西九州大学
(海外)
州立モンタナ大学

行政機関

環境省 熊本県 水俣市

企業

JNC株式会社(水俣市・台南市)
みなまたエコタウン協議会

NPO法人等

国際水銀ラボ
NPO植物資源の力
水の国高校生フォーラム
一般社団法人みなまた観光物産協会
国際環境教育基金FEE Japan

水俣SGHプログラム

「自然と人間(いのち)の共生」の大切さを共有し、人権感覚あふれる国際社会の成熟を目指すグローバルリーダーへ

水俣ACT I

「水俣病問題から世界の環境問題に目を向け
グローバルな視点を深化する」

Past
MINAMATA (1学年)

「過去の歴史を知る」
・スロベニア・イドリアへのフィールドトリップの準備
・水俣の歴史をフィールドワーク等で研究

Present
MINAMATA (2学年)

「現在の課題を学ぶ」
・スロベニア・イドリアへのフィールドトリップの実施
・世界の環境問題へ目を向けた探究活動

Future
MINAMATA (3学年)

「未来への提案を探る」
・普通科、商業科、機械科、電気建築システム科のそれぞれの特性に応じた課題研究

Active Learning Discussion

・能動的な学修を行い、論理的・科学的思考を高め課題解決に向けた表現力を養成する。
・英語によるディスカッションやディベートを行い、身につけた能力を有機的に統合する。

水俣ACT II

「現在も深刻化する水銀問題に対し能動的提言ができるような能力を育成する」

- ・水俣環境アカデミアや国水研等の研究機関、大学、行政、企業、NPOとの連携・研究
- ・ESD生徒リーダー研修(シンガポール・スロベニア等)
- ・慶応大や東京大留学生、国際水銀ラボのJICA研究生とのディスカッション

成果・検証

- ・高校生・留学生国際環境フォーラムの開催
- ・台湾修学旅行を通じて異言語コミュニケーションの実践
- ・事業効果を最大限にいかす評価・検証委員会の設置